

空港	三 沢	大館能代
提案者	青森県 三沢空港振興会	秋田県 大館能代空港利用促進協議会
運航	日本航空	全日本空輸
便数/ 機材	3便 ⇒ 4便 ～2023年3月:ERJ190、以降B737-800	2便 ⇒ 3便 B737-800
目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 羽田空港を経由した西日本との観光交流の更なる拡大</li> <li>✓ 訪日外国人旅行者の地方誘致の促進</li> <li>✓ 北海道・北東北での周遊観光の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 産業振興</li> <li>✓ 観光誘客</li> <li>✓ 教育・人材育成</li> <li>✓ 移住・定住促進</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 観光利用が少ない</li> <li>✓ 県外客のうち、関西以西の割合が少ない</li> <li>✓ 訪日外国人利用の更なる拡大</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 地元の利用と冬季閑散期の利用促進</li> <li>✓ 西日本・海外からの乗継利用の促進</li> <li>✓ 幅広い世代に使いやすいダイヤの構築</li> </ul>
目標	<p>&lt;利用者数の増加&gt; 2018年度:228,734人 ⇒ 2024年度:330,000人</p> <p>&lt;地域貢献度の増加&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・青森県延べ宿泊者数(国内・国外) 2018年:506万人泊 ⇒ 2023年:550万人泊</li> <li>・青森県外国人延べ宿泊者数 2018年:35万人泊 ⇒ 2023年:50万人泊</li> <li>・青森県観光消費額 2018年:1,902億円 ⇒ 2023年:2,000億円</li> </ul>	<p>&lt;利用者数の増加&gt; 2018年度:150,570人 ⇒ 2024年度:233,000人</p>
連携体制	<p>&lt;県内・北東北&gt; 三沢空港振興会、青森空港振興会議、 北東北5空港ビル、北海道・北東北3県 等</p> <p>&lt;首都圏&gt; 県東京事務所、JAL 等</p>	<p>&lt;北東北広域連携&gt; 大館能代空港利用促進協議会、北東北DMO連携会議 等</p> <p>&lt;首都圏&gt; 県東京事務所あきた売込み課、アンテナショップ「あきた美彩館」 等</p>
需要喚起策	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 乗継割引キャンペーンへの参画</li> <li>✓ 青森空港の海外直行便と連携した誘客</li> <li>✓ 北海道・北東北の縄文遺跡群の県外プロモーション</li> <li>✓ 空港連絡バスの増発、路線新設</li> <li>✓ JALと共同で広報・周知を実施</li> <li>✓ 青森・三沢両空港のファンクラブ「A-Wing」会員の空港ラウンジ無料化</li> </ul> <p style="text-align: right;">等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 高速IC直結空港の利点を活かした北東北周遊の拠点化</li> <li>✓ 航空と鉄道の連携促進など二次アクセスの充実</li> <li>✓ 北東北スノーリゾート「Deep Japan」への誘客</li> <li>✓ 冬の「食・地酒・秘湯」文化の体験</li> <li>✓ 「秋田犬」や教育分野など多様な資源を活かした交流機会の拡大</li> <li>✓ 新エネ・医療機器・リサイクルなど「稼ぐ力への投資」によるビジネス需要の掘り起こし</li> </ul> <p style="text-align: right;">等</p>
コスト削減策	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 着陸料減免相当分の補助</li> <li>✓ 着陸料以外の運航経費削減施策を検討</li> <li>✓ 三沢空港ターミナルビルの改修を検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 着陸料の減免拡大による運航コストの削減</li> </ul>
リスク共有	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 着陸料以外の経費削減施策は、利用状況に応じてリスクを共有する仕組みを今後協議</li> <li>✓ 利用促進施策は定期的に協議し、利用状況に応じて、短期的、中期的な施策を地元、航空会社ともに打ち出す</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 利用目標の達成状況に応じ、航空会社に支援を行う</li> </ul>

# 羽田発着枠政策コンテスト 提案一覧②



別添		
空港	山形	鳥取
提案者	山形県 山形空港利用拡大推進協議会	鳥取県
運航	日本航空	全日本空輸
便数/ 機材	1便 ⇒ 2便 ERJ190 ※需要に応じて機材の大型化を検討	4便 ⇒ 5便 B737-800/A320
目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 東北におけるインバウンド観光の拡大</li> <li>✓ 県民の足の維持・交流人口の拡大</li> <li>✓ 交通リダンダンシーの維持・空港の活性化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 新幹線がなく首都圏への移動を航空便に大きく依存</li> <li>✓ 首都圏からの人の流れを拡大し、更なる地域活性化を図る</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 広域観光需要等の創出</li> <li>✓ 海外からのインバウンドの受入拡大</li> <li>✓ 海外へのアウトバウンドの拡大</li> <li>✓ 県民の利用拡大</li> <li>✓ 県外からの利用拡大</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ ビジネス利用が多く、観光需要を取り込むためには旅客輸送容量が不足</li> <li>✓ 販売形態の変化、既存ユーザーの減少</li> <li>✓ 閑散期・低需要便の存在</li> </ul>
目標	<p>&lt;利用者数の増加&gt; 2018年度:103,467人 ⇒ 2024年度:111,300人</p> <p>&lt;地域貢献度の増加&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県民時間短縮便益 2018年度:183百万円 ⇒ 2024年度:204百万円</li> <li>・県外入込客消費額 2018年度:506百万円 ⇒ 2024年度:665百万円</li> </ul>	<p>&lt;有償旅客数の増加&gt; 2018年度:385,612人 ⇒ 2024年度:420,000人</p>
連携体制	<p>&lt;県内&gt; 山形空港利用拡大推進協議会(コア6を含む内陸全市町村、経済団体、旅行会社、JAL等)</p> <p>&lt;広域連携体制&gt; 仙台空港、東北観光推進機構、県内DMO(DMC)等</p> <p>&lt;首都圏&gt; 県東京事務所、JAL、羽田空港、JALPAK等</p>	<p>&lt;鳥取県&gt; 鳥取空港の利用を促進する懇話会(兵庫県但馬地域も加盟)、ANA山陰支店、鳥取県観光連盟、山陰インバウンド機構</p> <p>&lt;首都圏&gt; 首都圏旅行社等</p>
需要喚起策	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 山形・仙台両空港の連携強化</li> <li>✓ 東北DCを契機とした多様な交通手段との連携</li> <li>✓ 羽田空港乗継ぎ利用の促進</li> <li>✓ 空港を起点とした二次交通の充実</li> <li>✓ 若年層への運賃助成</li> <li>✓ 羽田空港と連携したPR、インセンティブの付与等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ まんがコンテンツによるおもてなし</li> <li>✓ 東京オリ・パラを契機とした外国人誘客</li> <li>✓ ビジネス人材の移住支援</li> <li>✓ 家族旅行への助成</li> <li>✓ 圏域住民・企業を対象とした空港サポートクラブの運営</li> <li>✓ 空港レンタカーへの助成等</li> </ul>
コスト削減策	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 路線収支共有制度の発展的解消</li> <li>✓ 着陸料等の固定的コストの低減</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 着陸料の減免</li> <li>✓ 国際航空貨物の試験輸送等を通じた利用促進</li> <li>✓ 低層風情報提供システムの導入・保守管理</li> </ul>
リスク共有	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 路線収支共有制度は発展的に解消するが、機材の大型化や3便化が具体化した際に協議を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 着陸料の軽減措置は、増便分以外のすべての便(4便)にも適用しており、増便による一定の事業リスクの低減措置を予め組み込んだ形をとっている。</li> </ul>

空港	石見	佐賀
提案	島根県 萩・石見空港利用拡大促進協議会	佐賀県 九州佐賀国際空港活性化推進協議会
運航	全日本空輸	全日本空輸
便数/ 機材	1便 ⇒ 2便 B737-800/A321	5便 ⇒ 6便 B737-800/A321
目的	✓ 他地域との相互発展の成功事例を生み出す地域創生のトップランナー化	✓ 佐賀空港の取組を可視化し共有することで、地域の発展のみならず国内の航空活性化に繋げる
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ これまで築いた需要の維持</li> <li>✓ 成果が出始めた取組(個人観光誘客、都市間交流)の拡大</li> <li>✓ 取込みが不十分な層(山口県在住者、訪日外国人)へのアプローチ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ インバウンド旅客数が伸び悩み</li> <li>✓ 県内への宿泊旅行者が減少</li> <li>✓ 2、4、6、7月が閑散期</li> </ul>
目標	<p>&lt;利用者数の増加&gt; 2019年度(目標):148,000人 ⇒ 2024年度:152,000人</p> <p>「持続可能な地域づくり」と「助成金等に頼りすぎない利用促進策への改善」を両立させ、安定した需要を創出</p>	<p>&lt;利用者数の増加&gt; 2019年度(見込み):488,000人 ⇒ 2024年度:600,000人</p> <p>&lt;搭乗率の上昇&gt; 2,019年度(見込み):73.4% ⇒ 2024年度:74.2%</p> <p>&lt;経済波及効果の拡大&gt; 2019年度(見込み):46億円 ⇒ 2024年度目標:57億円</p>
連携体制	<p>&lt;地元&gt; 萩・石見空港東京線利用促進対策会議(島根県、山口県、萩・石見空港利用拡大促進協議会、商工団体、観光団体、市・町)、ANA、他空港(山口宇部、岩国錦帯橋)、山陰インバウンド機構、しまねいわみ観光振興機構、島根県立大学 等</p> <p>&lt;首都圏&gt; 自治体(川崎市、文京区、墨田区)、商工会議所(川崎商議所)、大学(大正大学、東洋大学、青山学院大学) 等</p>	<p>&lt;県内及び周辺地域&gt; 九州佐賀国際空港活性化推進協議会、佐賀県観光連盟、ANA、筑後佐賀圏域市町 等</p> <p>&lt;首都圏&gt; 県東京事務所、ANA、さがさいこう応援団 等</p>
需要喚起策	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 地域の課題解決に向けた新たな旅行商品の造成</li> <li>✓ 山口県や圏域の観光施設と連携した新たなキャンペーンの展開</li> <li>✓ 既存スポーツコンテンツと観光を組み合わせた誘客促進</li> <li>✓ 都市間交流による人の流れの拡大</li> <li>✓ 首都圏から応援する「関係人口」による地方への人の流れの創出 等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 自発の地域づくり(地域資源を活かした地域主体の街づくり)による需要開拓</li> <li>✓ 空港施設機能や空港アクセスの強化</li> <li>✓ インバウンド旅客の受入環境整備</li> <li>✓ 閑散期における旅行需要喚起 等</li> </ul>
コスト削減策	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 着陸料減免措置の拡大(正規着陸料の2/3)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 着陸料減免</li> <li>✓ 保安検査費及び夜間駐機費補助</li> <li>✓ 停留料全額免除</li> <li>✓ 省力化・自動化技術導入</li> </ul>
リスク共有	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 損益分岐点を下回った場合は不足額を航空会社と地元が折半(地元は、航空会社に対する着陸料減免措置の拡大、空港ターミナルビル使用料等の助成により負担)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 利用者数が一定を下回った場合、県とANA双方でリスクを共有</li> </ul>

# 羽田発着枠政策コンテスト 提案一覧④

別添	
空港	下地島
提案	宮古島市、沖縄県、 下地島エアポートマネジメント(株)
運航	スカイマーク
便数/ 機材	0便 ⇒ 1便 B737-800
目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 既存ストックを活かした観光立国と地方創生の実現</li> <li>✓ 低廉な航空運賃による潜在需要の掘起しと座席供給量の増加</li> <li>✓ 持続可能な観光振興の実現</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 旅客需要の季節偏在</li> <li>✓ 高い新規就航・運航コスト</li> <li>✓ 観光客の受入環境整備が必要</li> </ul>
目標	<p>&lt;利用者数&gt; 2024年度:110,319人</p> <p>&lt;搭乗率&gt; 2024年度:86.5%</p> <p>&lt;宮古島への入域観光客数の増加&gt; 2018年度:114万人 ⇒ 2024年度:160万人</p> <p>&lt;宮古島入域観光客数の繁閑比の改善&gt; 2018年度:45% ⇒ 2024年度:50%</p> <p>&lt;観光関連産業就業者数の増加&gt; 2018年度:2,115人 ⇒ 2024年度:2,649人</p>
連携体制	<p>&lt;県内&gt; 下地島空港活性化協議会(仮称)、SKY、沖縄観光コンベンションビューロー等</p> <p>&lt;首都圏&gt; 県東京事務所、沖縄観光コンベンションビューロー東京事務所、沖縄県物産公社、三菱地所、双日 等</p>
需要喚起策	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 航空会社と連携した路線プロモーション</li> <li>✓ 東京都心部における訪日客へのPR活動の展開</li> <li>✓ 新たな野球場建設等を通じたスポーツ合宿・キャンプの誘致</li> <li>✓ 利用目的に応じた2タイプの空港アクセスバスの運行</li> <li>✓ 国内・海外の教育機関の誘致により観光関連産業人材を育成 等</li> </ul>
コスト削減策	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 就航後3年間、路線の立ち上げと路線維持に係る支援金を航空会社に支払</li> </ul>
リスク共有	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 閑散期における地元から航空会社への支援金の支払</li> <li>✓ 繁忙期における航空会社から地元への利益金の還元</li> <li>✓ 旅客数連動型の空港ターミナル料金体系を設定</li> </ul>